

令和5年度 いわき市医療センター看護専門学校 学校運営評価

1 教職員による学校運営評価

1) 評価表

評価のカテゴリーは9領域（48項目）です。各項目は、「5；できている～1；できていない」の5段階で評価しました。

2) 全体の結果

I～Ⅸのカテゴリー別平均の推移は図1の通りです。平均の高い順にみると「Ⅳ学生生活への支援」（4.73）、「Ⅷ広報」（4.72）、「Ⅲ入学・卒業対策」（4.67）、「Ⅰ学校経営」（4.66）、「Ⅸ地域との連携」（4.66）、「Ⅴ管理運営・財政」（4.54）、「Ⅱ教育課程・教育活動」（4.44）、「Ⅶ教職員の育成」（4.36）の順でした。平均点が一番低いカテゴリーは、「Ⅵ施設設備」（4.31）でした。

すべてのカテゴリーで4以上となり、特に「Ⅸ地域との連携」（4.66）は、0.30上昇しました。

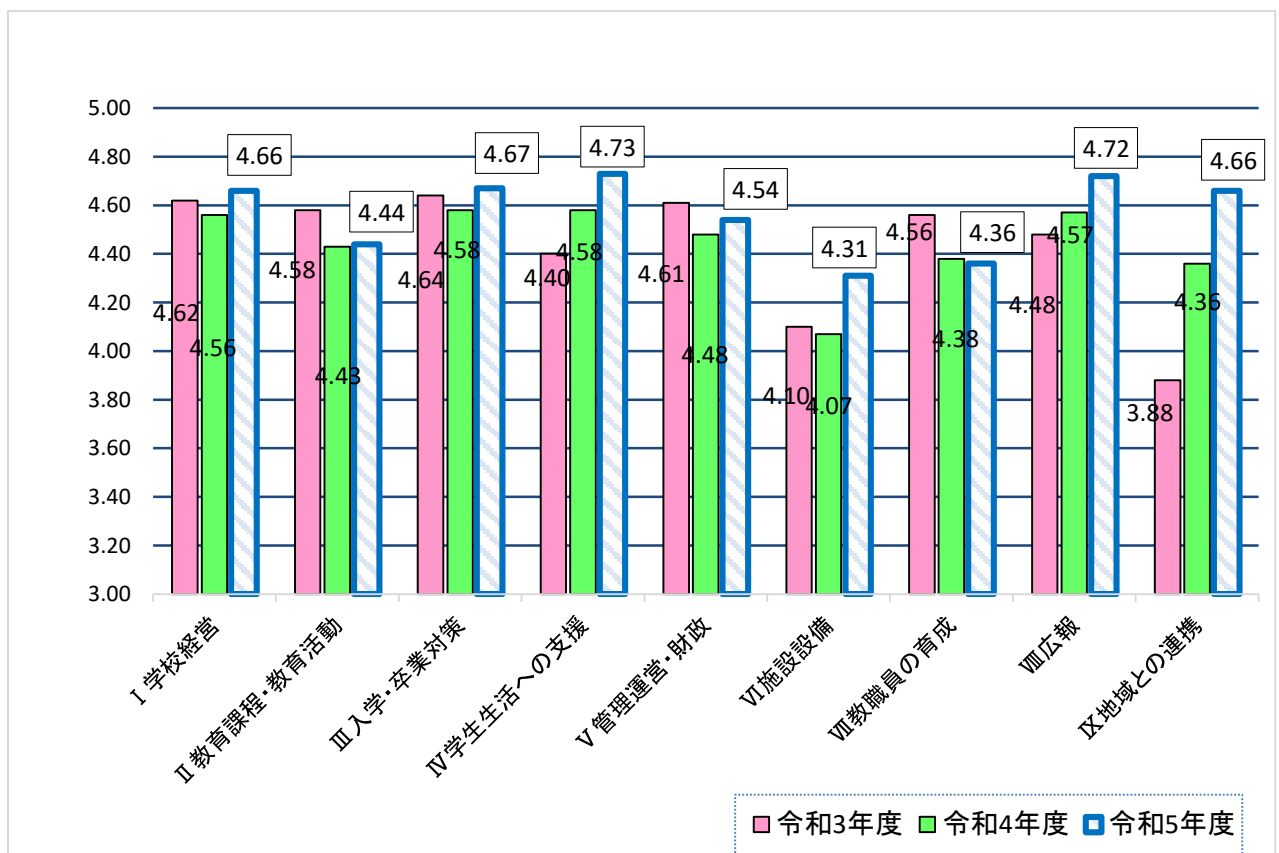


図1 カテゴリー別平均

3) 改正カリキュラム（教育課程）運用2年目

地域と連携し地域から学ぶ授業や、実践的な学びをする基礎看護技術の授業、多職種連携を強化した授業、各看護学の横断する内容を健康状態別看護とし、対象の健康状態に対応できる判断能力を養って看護実践につなぐ授業を行いました。学生は地域に出かけ現状を把握したり、看護実習室で技術練習をしたり、臨地実習をイメージしたシミュレーション教育を受けることで、考える力や多職種と連携する力を身につけ、保健・医療・福祉システムの中で活躍できる看護師をめざして学習しています。また、電子テキストやシミュレーションモデルを活用するなど、より実践的な授業を行っています。

4) 地域と連携した授業やボランティア活動

令和4年度から、新カリキュラムにおいて、地域の資源を教育内容に取り入れています。いわき市10地区の区長さんを中心に1年生の地区踏査にご協力いただき、そのつながりから学生が地域の活動に参加協力しています。

ボランティア活動について、令和4年度からボランティア団体への登録を行い、ボランティア担当教員を配置しています。授業の一環としてのボランティア活動への参加や、登録による依頼だけでなく、地域の方から直接ボランティア依頼がある場合もあります。また、学生自治会を中心に献血活動やサンシャインマラソンボランティアに参加するなど、学生が主体的に参加し、地域との関わりもより深まりました。

5) 感染症対策の徹底と感染状況による柔軟な対応

新型コロナウイルス感染症対策については、いわき市医療センター感染管理室に相談しながら、随時感染対策を見直し、感染症予防や拡大防止対策を徹底しました。看護学生として、市民の一人として、毎日の体調確認、基本的な感染予防対策に取り組んでいます。

入学式、看護宣誓式、卒業式は規模を縮小しての開催でしたが、大切な節目となりました。学校見学会は保護者の方も参加しました。文化祭は感染対策を講じながら、いわきの特産物の物品販売やキッチンカーなど地域の方々にも参加していただき、一般の方にも各学年の企画や研究発表をご覧いただきました。学校生活の様子は随時フェイスブックで発信しました。感染状況により、一部オンライン授業も活用し、1年間学びを継続することができました。

6) 社会人基礎力を高める学生支援

学年担当教員による定期的な面接に加えて、スクールカウンセラーによるカウンセリング、学生間交流グループ活動による学年間交流、文化祭の企画・開催など、教職員全員で学生生活の支援や学習支援に取り組みました。

国家試験合格率は新卒97.6%で全国平均を上回っています。臨地実習は実習施設のご協力をいただきながらほぼ予定通りに実施でき、患者さんや臨床指導者より多くの学びをいただきました。また、学生個々の学習状況を分析し、指導に生かしています。

また、学生が主体的に課題に取り組む授業や、学生自身が外部の方と調整して行なう授業などもあり、状況を考えながら対応する力を養っています。今後も「つながる力」などチームで協働する力を身につけられるよう支援していきます。

7) 教職員の育成

福島県看護学校協議会が主催する公開授業の機会があり、本校教員が新カリキュラムの健康状態別看護（領域横断）「周手術期と看護」のシミュレーションを取り入れた授業を実施しました。本校教員12名、他校から5名の教員が参加し、シミュレーション教育の実際について共有できました。また、本校の「形態機能学」の授業の工夫等に関する研修に、公立岩瀬病院附属高等看護学院の教員1名が来校しました。福島県看護協会主催の福島県実習指導者講習会の講師も行いました。

【論文発表】

- 1) 平澤由希子 迎田美香：精神看護学におけるシミュレーション教育と臨地実習での学び—コミュニケーションにおける学生の学びの検討—,日本看護学会誌 Vol.18 No.2,2023 年.

2 学校生活に対する卒業時アンケート

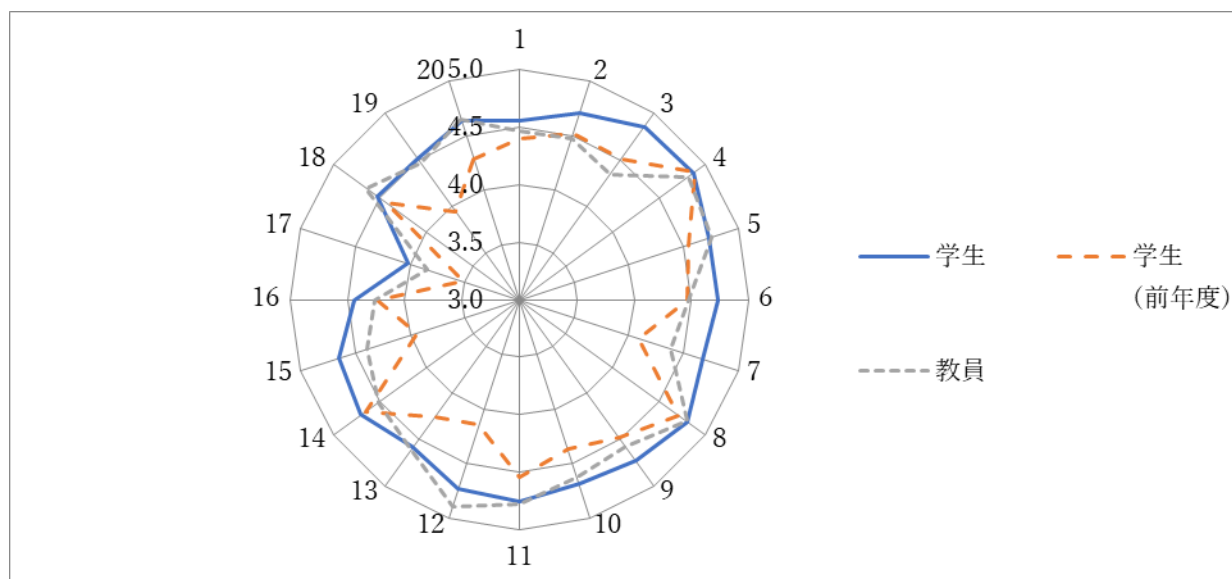


図2 学校生活に関するアンケートー教職員の学校運営評価との対比ー ※項目内容は最後尾に記載

【結果のまとめ】20項目の平均は4.6（R3年度4.4、R4年度4.3）でした。前年度と比較すると項目4と14で同点ですが、それ以外は前年度より高い得点でした。3年間の学校生活に対する満足度は4.0以上と高く、ほとんどの学生は学校生活に満足していると考えます。平均が低かった項目は、Ⅵ施設設備の「バリアフリー構造」4.0でした。施設構造は学校生活には支障のない状態となってはいますが、バリアフリーの捉え方の相違が評価を低くしていると考えます。次に低かった項目は、Ⅵ施設設備の「校舎を定期的に点検、適正な整備」4.4でした。自由記載にもトイレの水道を直してほしいという意見がありました。定期点検を行っていますが、校舎内の老朽化が進み修理困難な状況もあります。現状をその都度説明しながら点検を継続し適正に整備を行っていきます。前年度との比較で「交流等を行うスペース」は、3.9から4.5と上昇しています。これは、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったことで感染対策を講じながらも、学生が休息、親睦及び交流を図るスペースを確保しながら、活用されてきているためと考えます。Ⅳ学生生活への支援の「心身両面での健康管理」は、前年度との比較で4.4から4.7と上昇しています。これは、身体面は勿論のこと、学生の意見からも学生は精神的な支援を受け、安心感を得ることができていたと思われます。Ⅴ管理運営・財政の「学校運営に学生の意見が反映」は、前年度との比較で3.9から4.7と上昇しています。これは、自治会活動や文化祭、日々の学校生活の中で学生の意見を聞きそれを尊重し、学校の運営に生かすことができていたためと考えます。全体として、Ⅱ教育課程・教育活動の「学習環境・指導体制」「学生に対して人権への配慮」「学生のレベルに合う指導」の評価が上昇しました。これは、学生の積極的な姿勢と指導側との相互作用が功を奏したものと考えます。

＊図 2「学校生活に関するアンケート」の設問内容については下記をご参照下さい。

（Ⅱ～Ⅷは、アンケート項目に対応する学校運営評価のカテゴリーを表す）

Ⅱ 教育課程・教育活動に関する項目

- 1 学生便覧に記載されているシラバス(授業内容)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。
- 2 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している。
- 3 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っている。
- 4 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施している。
- 5 実習において、学生が関係したインシデント(ヒヤリ・ハット体験、事故報告)等を把握・分析していると同時に、改善策を講じている。
- 6 授業改善に努める目的で、学生による授業評価(講義・臨地実習)を実施している。
- 7 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。

Ⅲ 入学・卒業対策に関する項目

- 8 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる。
- 9 学生の進路決定率を高めるよう努めている。

Ⅳ 学生生活への支援に関する項目

- 10 学生の心身面での健康管理体制が整っている。
- 11 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じている。
- 12 学生がボランティアなどの社会活動へ積極的に参加できるよう努めている。
- 13 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、支援を得ることにつながっている。

Ⅴ 管理運営・財政に関する項目

- 14 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
- 15 学校運営などに学生の意見が反映されている。

Ⅵ 施設設備に関する項目

- 16 校舎を定期的に点検し、適正な整備を行っている。
- 17 校舎はバリアフリーに配慮された構造になっている。
- 18 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
- 19 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。

Ⅶ 広報に関する項目

- 20 看護師養成所としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。